

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
28	7・8	<p>一匹の^{うさぎ}兎が駆け過ぎるのを見たときに、自分の中の人間はたちまち姿を消した。の中の人間が目を覚ました時、自分の口は^{うさぎ}兎の血にまみれ、あたりには兎の毛がいた。これが虎としての最初の経験であった。それ以来今までにどんな所行をきたか、それはとうてい語るに忍びない。ただ、一日のうちに必ず数時間は、人</p> <p style="text-align: right;">10</p>	<p>一匹の^{うさぎ}兎が駆け過ぎるのを見たときに、自分の中の人間はたちまち姿を消した。の中の人間が目を覚ました時、自分の口は^{うさぎ}兎の血にまみれ、あたりには兎の毛がいた。これが虎としての最初の経験であった。それ以来今までにどんな所行をきたか、それはとうてい語るに忍びない。ただ、一日のうちに必ず数時間は、人</p> <p style="text-align: right;">10</p>
406	筆者紹介 L4	『性愛と資本主義 増補版』	『性愛と資本主義 増補新版』